

「よいしょ…っ、んんっ♡♡確かこんな感じでえ…っうりやあっ♡♡♡」
「うはあっっっ！…あっ、ああ…っっ！…」

既に勃起し、反り立つ先生の肉棒を超爆乳化したイロハのおっぱいが容易く
包み込んだ。むっちりとして柔らかなおっぱいが亀頭の先端まで肉棒を飲み込む。

いっほんんん

「ふふ…っ、これで合ってますよねー、先生？♥♥パイズリ…っ♥♥先生の大事な
愛読書^{エッチなほん}にやり方までじっくり載っていましたよ♥♥」

「こっやっとおっぱいの大きな女性にこっやって挟んでもらって♥♥根本からたっぷり
おちんちんをシコシコズリズリしてもらうのが夢…だったんですよね？♥♥」



「うああ…っ、イロハのおっぱい…柔らかいっ！…こうやって挟んでもらってるだけで…」
「いつちやいそう…っ？ですか♡♡まだ、ダメですよ？♡♡」

「気持ちよくなってもらうのはこれから…なんですからね♡♡よく見ててください
先生♡♡私のおっぱいが先生のおちんちん食べちゃうところ…っ♡♡♡♡」



そういうと、イロハは静かにパイズリを始めた。まるでスイカの如く巨大なおっぱいをその小さな両手でしっかりと抑え、ゆっくりと上下に抜く。

初体験であるが故、手つきこそまだおぼつかないものの…あまりあるその乳の質量はテクニクの拙さを補うには十分過ぎた。



「ふう…っ♡♡♡はあ…っ♡♡♡やつば重…っ♡♡♡思った以上に手が疲れる…っ♡♡♡
どうですか？先生…っ♡♡♡ちゃんとパイズリ…出来てますか？♡♡♡」

「うんっ、うん…っっ！イロ…っ、気持ちいいぞ…っ！…ああ…っっ、この光景だけでも
マジでちんちんがヤバイ…っ！…最高すぎる…っ！…」



「イロハのようなちっちゃい子にこの規格外の超爆乳…っ！ー反則過ぎる…っ！ー！」
「ん…っ♡♡♡はっ♡♡♡あ…っ…先生のぉちんちん悦んでるのが理解る…っ♡♡♡♡♡」

「これ結構…っ、楽しいかも…♡♡♡パイズリ…っ♡♡♡んっ…ふう…っ♡♡♡こっやって
先生のおつきくて長〜いおちんちんを…っ♡♡♡挟んで…扱いてっ♡♡♡♡♡」



「くっく、うう…っつー！ーイ只…っ、ごめんっ、ちよと早いけど…っ！ーうあっつー！ー
もっ、もう射精そう…っつー！やばう！」

んー？

もーっ

「えっ、まだダメですよ？…あっ、おちんちんびくびくしてる…っ♡♡もう射精ちゃう
んですかっ♡♡もう…先生ったら…」

はっはっは

はっはっは

「射精すのはまだダ〜♡♡♡えいつ♡♡」
「うっうっ………！…？…？いつ、イロあつ…！…！…うっうぐっうあああつ…！…！」

「せつかくのパイズリなんですから…♡♡♡うんとギリギリまで我慢してください♡♡♡
射精ないようにこうやってじつかり抑えてますからね…♡♡♡♡♡」

あーん ぐん ぐん ぐん

「うわっ、あつ！があつ！ー！ああつ！ー！だつ、ダメっ！ー！それダメだイロあつ！ー！」
「はあつ、はあつ♡♡気持ちいいでしょう、先生っ♡♡はあつ、はあつ♡♡♡♡」

絶妙な乳圧で尿道を塞がれ、柔らかな乳房に射精を抑えられたままさらに
激しく肉棒を扱かれるこの快感に先生は思わず声を上げる。

ハァハァ

ハァハァ

ズー

「あつ、あつ！ー！射精る射精るつ！ー！もう限界だあつ！ー！イロ只あつ！ー！
射精すぞつ！ー！このままお前のおっぱいにいつ！ー！」

「今度こそ射精るんですねっ♡♡♡んんっ♡♡♡いいですよ♡♡♡射精してくださいっ♡♡♡
先生っ♡♡♡あつ、あつ♡♡♡私のおっぱいにいつぱい射精してっ♡♡♡♡♡♡」



「射精るっっっ……ぐっっ……」
「ひゃっっっっ♡♡♡♡♡あっ♡♡♡♡♡射精てるっ♡♡♡♡♡うあっ♡♡♡♡♡」

ほんの一瞬、イロハが乳圧を緩めた瞬間、栓から吹き出すように精液が龟头から勢いよく発射された。大きな精液の塊がイロハの谷間から宙に舞う。



「あつ、あつ♡♡射精てる…♡♡先生の…おちんちんから精子が…ぴゅっぴゅ
って射精てるの…おっぱい越しに判っちゃ♡♡♡♡♡」

「うああ♡♡♡何これ…♡♡おっぱいの中に射精されるの…こんな感覚なんだあ♡♡
あつ、あつ♡♡♡これ…ヤバいかも…♡♡♡♡♡」



「ふあ〜っ…っはあ〜っ…っ♡♡先生の…いっぱい射精たあ…♡♡♡」
「はあ〜っ…っはあ〜っ…っ！イロハあ…っ…気持ちよかったよ…っ」

「ん…っ♡♡言わなくても…理解しますよ♡♡だつてこんなに…射精してもらえた
から…♡♡はあ〜っ…っ♡♡♡」



「……でも♡♡先生…っ、まだ足りないって思ってるでしょう♡♡」
「ギクッ！…なぜ俺の考えてる事が理解るんだ…っ」

「だって…おちんちんがまだ全然硬いままだし…♡♡それじゃあ…、続き♡♡
このままいっちゃいますね？先生…♡♡♡♡」



射精を終えたばかりだというのに、すぐさまパイズリが再開された。谷間にはまだ精液がたつぷりと残ったままだ。それを気にもせず先ほど同様の勢いで抜く。

「んっ、ふっ♡♡♡はあっ♡♡♡凄いネチャネチャいってるっ♡♡♡先生の精子がおっぱいの中でねるねるねるね状態になってますよ…♡♡♡」



「はあっ、はあっ！ああっ！気持ちいい…っ！イロハのパイズリ最高だよ…っ！先生はこれからもイロハにして欲しいなあ…っ！…ぐっっ…！」

「ええ…っ、これ結構…っ、んんっ♡♡大変だからどうしようっかな♡♡それに…仙薬の効果だっ…んっ♡♡有限ですからね…っ♡♡」



「大丈夫…っ！先生が箱買いしてストックしておくから…っ、ううっ…！」
「先生つてば…っ♡♡♡はあっ、はあ…っ♡♡♡そんなにパイズリが…好きだったんですね♡♡」

「じゃあこれから…私の掃除当番は先生が代わってくれるならあ…考えてあげてもいいですね…っ♡♡♡んじょ…っ、はあっ♡♡♡」



「仙薬の効果…実は永続化する方法があるんだけどお…先生には秘密にしておこうかな♥♥さすがにいつもこの状態じゃ歩くのも大変だし…んっ♥♥」

「掃除当番と引き換え…うぐぐっ! あっ、あっ、どうしようか…っっ! ううっ!」
「ほらほら…っ、先生っ♥♥悩んでると…終わっちゃいますよっ♥♥」



「ぐううつつー！ああつー！射精る…うつつ、もつ、もう射精るうつつー！イロハっー！
また射精すよつつー！ああつ、射精していいかつー！」

「んん…っ♡いいですよつ、先生っ♡♡いっぱいぶちまけて…うつ♡先生の熱い
精液をありつたけ♡♡私に全部ぶっかけてええ♡♡♡」



2015

「うううっ！ー！射精るっ！射精るううっ！ー！イロハあ…っ！ー！」
「ん…っ♡♡先生の精子…熱いっ♡♡んあ…っ、おっぱい…火傷しちゃう♡♡♡」

「あっ、あっ…まだまだ射精てる…っ♡♡どれだけ射精るの…っ♡♡先生の精子で
おっぱい妊娠しちゃいそう…っ♡♡♡」



「はぁ〜…っ、はぁ〜…っ♡♡♡ん…っ♡♡♡凄い量…それにこの匂い…♡♡♡
あぁ〜…っ、先生…大好き…♡♡♡♡♡」

「はぁ〜…っ、ふう〜…っ！イロ…先生もだ…っ！うう…っ！
この柔っこい爆乳おっぱい…たまらない…っ！愛してるぞ…」

てんぱん

てんぱん

てんぱん



「…イ只、少し休んだらまた…お願いしていいか？」
「ええ…っ、またあ？♥♥さすがに疲れたんですけどお…♥♥まあ、いいですよ♥♥♥♥」

「（先生つたらもう完全におっぱい沼にハマっちゃったみたいですね…っ♥♥もう私の
おっぱいの事しか頭に無さそう…♥♥♥♥）」

